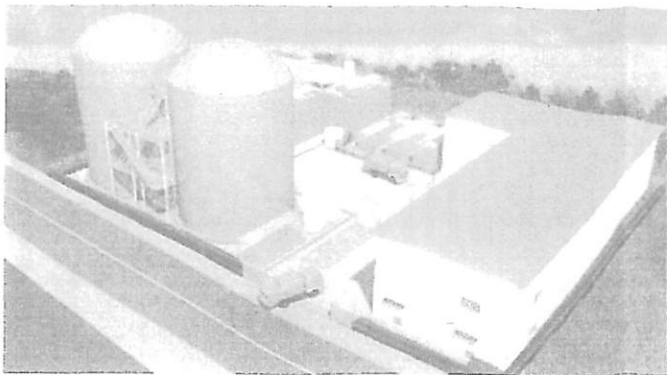


主要機器の据付進む



羽村バイオガス発電所の完成予想図

東京都羽村市で、アークエナジー(東京・港、植田徹也社長)が企画・運営するプロジェクトで建設が進められている羽村バイオガス発電所が、2020年7月にも商業運転を開始する見込みとなった。すでに主要機器の据付に入っており、20年3月には試運転を開始する。

西東京リサイクルセンター(NRC、大橋徳久社長)がオペレーションを行う同発電所は、食品廃棄物など1日当たり80トンの処理、年間約850万キロワットの

羽村バイオガス発電所

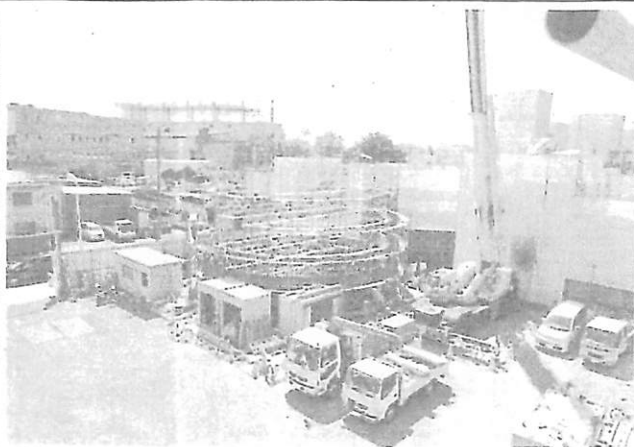
来年7月、商業運転へ

西東京で80t/日規模

食品系・バイオマス

発電規模で計画され、首都圏で不足する食品リサイクルの受け皿として、食品関連事業者や周辺市町から注目を集めてきた。18年3月に地鎮祭を行い、周辺企業や住民への説明会を重ねた後、所定の手続きを経て同年10年に着工した。

工業専用地域の100坪の敷地に建設中の施設は、前処理棟、発酵槽、排水処理設備、発電設備で構成する。完成後は、合同会社羽村バイオガス発電所が



発酵タンクの組み付け工事(2019年6月18日撮影、写真提供=アークエナジー)

の施設は、前処理棟、発酵槽、排水処理設備、発電設備で構成する。完成後は、合同会社羽村バイオガス発電所が

運営主体となり、来年7月からの商業運転では、関東圏で発生する産業廃棄物の食品廃棄物を中心に受け入れ、異物を除去した上でメタン発酵ガス化発電を行い、E-Fuelを活用して売電する。

アークエナジーの植田社長は、「都市型の施設として、運営にあたっては近隣の環境にも十分配慮しながら、食品リサイクルをめぐって東京・多摩地域で顕在化している受け皿不足の問題に寄与していきたい。食品廃棄物の堆肥化や焼却の限界が指摘される首都圏では、メタン化にかかる期待は大きく、電力の需要もある中で、羽村市で取り組む意義は大きい」と語った。